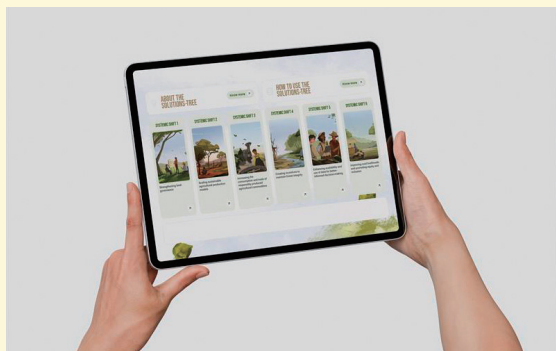


事例 I - 10 FAOを通じた森林減少の抑止に向けたプロジェクトの推進

世界の森林面積が依然として減少する中、特にアフリカや南米では、農業に起因する森林減少・劣化が進行しており、気候変動対策や生物多様性保全、SDGsの達成に向けて、森林と農業の調和を図ることが重要となっている。このため、林野庁ではFAOと共に、2023年10月に、世界的な森林減少・劣化の抑止を目的とする新たなプロジェクトを開始した。

本プロジェクトでは、各国の政策担当者が自国の状況に応じて、最も効果的な森林減少・劣化の抑止策を作成できるように支援する「ソリューションズ・ツリー」の開発を行った。同ツールの開発に当たっては、各国で実施されている方策の分析及び費用対効果の検証を行っており、ツール上で森林減少・劣化の抑止実現のために必要な社会モデルを選択すると、それに応じた効果的な政策や実施手段が提示される。具体的には、「土地利用の管理体制強化」、「持続可能な生産モデルの構築」、「責任ある方法で生産された農産物の消費と貿易の拡大」といったモデルから優先すべき一つを選択すると、実現に必要な解決策や対策が列挙される。政策担当者が、これらに対し、自国の状況や優先順位を踏まえた検討を行い、具体的な森林減少・劣化の抑止策を設計することができる。

また、本プロジェクトでは、アジア・太平洋、アフリカ、南米の各地域で同ツールの普及のためのワークショップを開催しており、こうした取組を通じて、持続可能な森林経営と農業の両立に当たっての効果的な方策が展開され、世界の森林減少・劣化の抑止に貢献することが期待される。



ソリューションズ・ツリーをタブレットで活用している様子



TICAD 9における普及活動